

地域が主役のまちづくり
地域サポーターの紹介

南畑公民館

049-251-5663



吉川 栄司さん
(上南畑在住)

さつき会代表

三味線を通して皆を元気に

以前から民謡を習っていたことから、三味線をやらないかと仲間誘われ、平成19年に「さつき会」を立ち上げて、現在は妻を含め5人のメンバーで活動しています。それ以来、知り合いの老人ホームで三味線を披露しており、今では、東中学校に併設されているデイサービスセンター南畑など市内外の4か所の施設を毎月訪れています。

披露する曲は、季節に合わせてものがほとんどですが、馴染みの曲の方が喜ばれるので、一緒に口ずさめる歌を取り入れるようにしています。

訪問する前には、70歳から習い始めたパソコンで、プログラムと歌詞を作る曲が作られた都道府県を載せておくと、その出身地の方が喜んでくれます。



練習のようす

また、聞いてくださる方たちが長く座っているのが大変なので、演奏を短くするように心がけています。曲の終わりには、歌が好きな方や昔民謡をやっていた方からの突然のリクエストにより、即興で弾いたりすることもあるので気が付くと時間が過ぎてしまいます。

今年で83歳になりますが、色々な巡り合せにより現在も三味線を続けていられ、やっていてよかったと思っています。皆さんが毎回楽しみにしてくれるのが一番の張り合いになり、妻と仲間とともに、できる限り続けていきたいです。

手話で楽しもう

問合せ/障がい福祉課 ☎327

聴こえない人への配慮について・災害時編

聴覚に障がいがあるということは、音による情報のやり取りが難しいということです。特に、災害時や緊急時は、情報の多くが音声によって伝達されるため、聴覚障がい者は、必要な情報の入手が困難です。例えば、避難方法や避難場所についての情報が得られないため、必要な支援が受けられずに逃げ遅れてしまう場合があります。もし避難できても、周囲に手話や筆談を使う人がおらず、コミュニケーションが取れないため孤立してしまうことがあります。災害時には、命にかかわる深刻な問題です。

しかし、皆さんの「ちょっとした配慮」があれば、情報を得ることができ、適切に判断し行動することができるのです。「もしかして聞こえないのかな？」と想像して対応する配慮と積極的な情報提供が重要です。相手に手話や筆談など、どの方法がいいか確認し、コミュニケーションを取ってみましょう。

また、災害時に役立つコミュニケーション手段として、市では聴覚障がい者を対象に「聴覚障がい者

災害時援助用バンダナ」(右写真)を配布しています。

バンダナには、「耳が聞こえません」「手話ができます」の2つの言葉が書かれています。聴覚障がい者だけでなく、手話のできる方にも配布しています。聴覚障がい者であることが見てわかることと、手話が必要な人が手話のできる人を見つけやすくすることを目的としています。

※下記に掲載の写真から、AR動画が見られます。AR動画の利用方法など詳しくは、市ホームページをご覧ください。



～ 今月の手話 ～



家族



軽く振る



おじいさん



おばあさん